

ステップ 1 危険性又は有害性の特定

業務や作業場におけるハザードを特定します。警備業の場合、「転倒」や「車両との接触」のほか、「はさまれ」や「転落」などが考えられます。また作業場によっては「化学物質の吸引による中毒」も考えられます。

ステップ 2 リスクの見積もり

ハザードがどの程度の頻度で発生するのか（可能性）、発生した場合どの程度の重篤度なのか（死に至るのか、休業を要するのか、かすり傷程度かなど）を考慮してリスクを見積もります（リスクが大きいのか、小さいのか、中程度なのかなど）。

ステップ 3R リスク低減措置の検討・実施

見積もったリスクに基づき許容できないリスクのうち、優先度が高いものからリスクを低減する対策（歩行者マットを設置して転倒リスクを下げる、人員の配置箇所を見直して全体を見渡すことができるようにするなど）を検討のうえ可能なものから措置を実施しましょう。

ステップ 4 実施状況の記録と見直し

リスクアセスメントの結果や導入した対策などを記録し、共有しましょう。リスクの状況は時間とともに変化するため、適宜見直して必要に応じて再度リスクアセスメントを実施しましょう。